

瑞穂野地区 福祉のまちづくり計画

【改訂版】

手を取り合って
生きていこうよ
このまちで



瑞穂野地区福祉のまちづくり推進委員会



1 「改訂版」策定にあたって

初版の「瑞穂野地区福祉のまちづくり計画」は、平成28年(2016年)9月、社会福祉協議会が中心となり、まちづくり協議会の全面的な協力を得て、オール瑞穂野の組織体制が作られ「住民座談会」や「幸せなまちづくりアンケート」の実施、「福祉マップ」の作成、さらには小中学校からの援助を得るなど、まさに瑞穂野地区一体となって、1年7ヶ月間を要し、平成30年3月に完成しました。なお、5月には地区内全戸に配布いたしました。

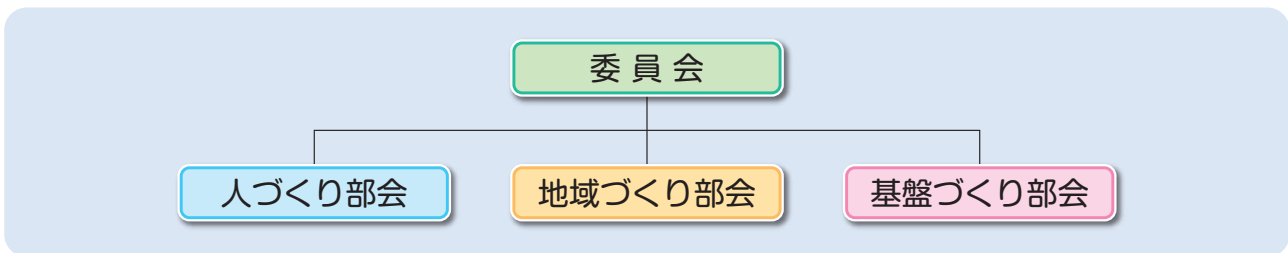
「福祉のまちづくり推進委員会」は、計画の「より住みやすいまち瑞穂野」であり続けるための活動を使命に、策定委員会のメンバーを軸に同年6月に発足いたしました。

以後、6年にわたりメンバー一同、試行錯誤を繰り返し活動してまいりましたが、計画は5年を目途に作られておりますので、この度、今までの活動を振り返りこれからの活動の在り方を示す「改訂版」を発行するに至りました。

地域の皆様には、これからも私たちの活動に対しご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

瑞穂野地区福祉のまちづくり推進委員会

■ ふくまち委員会の組織



■ 活動写真集



▲ のほり・横断幕の作成とあいさつ運動の実施 ▲



▲ 認知症予防講座の開催支援 ▲



▲ 中学生と連携した花植え活動（高齢者福祉施設にプレゼント） ▲

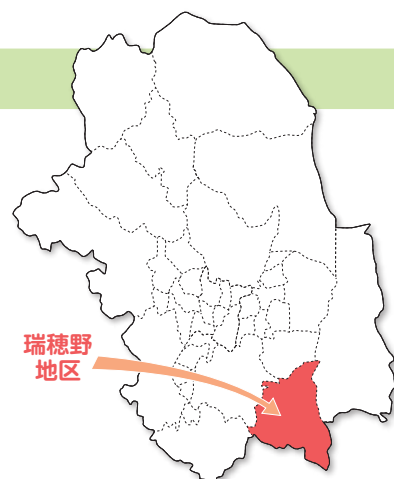


▲ パネルを作成し活動をPR ▲

2 瑞穂野地区の概要

瑞穂野地区は、市の中心部から約10キロ南東部に位置し、東には鬼怒川が流れ、西には国道4号線が通っています。鬼怒川に沿って肥沃な農地が広がり、米を中心にイチゴ、トマト、タマネギは市内有数の生産高を誇ります。

一方、新4号国道沿いには、住宅地や工業団地、さらには貨物ターミナル等の市街地が形成され、農村部と都市部が融合した地域となっています。また、高速道路のICや大型ショッピングモールが隣接しており、暮らしに便利な地域となっています。



▲ イチゴハウス (下桑島町)



▲ 都市化された街並み (緑の郷)



▲ 四季を彩るみずほの自然の森公園 (西刑部町・平塚町) ▲

項 目		瑞穂野地区	宇都宮市全域
人口	★	10,006人	514,157人
年少人口 (年少人口率)	0～14歳 ★	1,638人 (16.4%)	62,516人 (12.2%)
生産年齢人口 (生産年齢人口率)	15～64歳 ★	5,666人 (56.6%)	316,172人 (61.5%)
高齢人口 (高齢化率)	65歳以上 ★	2,702人 (27%)	135,469人 (26.3%)
自治会数	◎	13自治会	786自治会
世帯数	★	3,892世帯	244,788世帯
うち自治会加入数	◎	2,794世帯	130,282世帯
福祉協力員数		43人	2,446人
ふれあい・いきいきサロン数		10箇所	324箇所

※ ★：市統計データバンク「町丁別人口(住基)」および「町丁別年齢各歳別男女別人口(住基)」より(令和6年3月現在)

※ ◎：宇都宮市自治会連合会データより(令和5年6月1日現在)



3 瑞穂野地区住民の思い

(1) 瑞穂野地区のよいところ

- ・自然が豊かであり、米や野菜がおいしい。
- ・子ども達が元気にあいさつできる。
- ・人と人との繋がりが良く、一致団結の風土がある。
- ・災害が少なく、治安が良くて暮らしやすい。
- ・地域内交通“みずほの愛のり号”が便利で利用しやすい。

(2) 瑞穂野地区の生活・福祉課題

- ・医療機関やショッピング施設が偏在している。
- ・公共交通の便が良くない。
- ・老後や生活に不安を抱えている人が多い。
- ・空き家が増えつつあり、環境の悪化が心配である。
- ・一人で暮らす人が増えている。
- ・近所づきあいが希薄になっている。

4 基本理念

《市内全地区共通基本理念》

「共に支え合い助け合う“向こう三軒両隣”の地域共生社会の実現を目指して」

《瑞穂野地区基本理念》

瑞穂野の 地域の絆 笑顔の輪 ～緑も心も豊かなふるさといつまでも～

5 基本目標（市内全地区共通）

(1) 福祉のこころをはぐくむ人づくり

(2) 共に支え合う地域づくり

(3) 安心して暮らせる福祉の基盤づくり

6 基本目標・基本施策・取組

基本目標1 福祉のこころをはぐくむ人づくり

▼施策① 世代間交流の推進「元気みずほの“あいさつ運動”」

目指す方向 → 生活・交流の基本となる“あいさつ”の推進により、世代を越えたつながりを強化し、世代間交流を促進します。

ステップ1 自然とあいさつを意識する町にしよう

→ のぼりや横断幕を活用したり、小中学校との連携などを通して、あいさつ運動を促進する

ステップ2 あいさつをきっかけに世代を越えて交流しよう

→ あいさつ運動をきっかけに世代間交流を進める

▼施策② 福祉共育の推進「福祉って、何だろう“福祉学び体験”」

目指す方向 → 福祉施設や団体等と連携し、福祉に関する学びや気軽に福祉にふれることができる機会を作ります。

ステップ1 小さい頃から福祉に触れよう

→ 身近な福祉をテーマにし、子どもの頃から福祉に触れる環境を作る

ステップ2 地域の様々な場所にある学びの機会に参加しよう

→ 講座を自治会ごとに行うなど、より多くの人に参加しやすい環境を作る

▼施策③ ボランティアの育成「小さなことから“地域ボランティア活動”へ」

目指す方向 → 敬老会やふれあい・いきいきサロンなどの福祉活動や、福祉施設等との連携により、ボランティア活動を推進します。

ステップ1 身近な場所のボランティア活動に参加しよう

→ 清掃活動やお祭りなど、身近な場所にボランティア活動の機会を作る

ステップ2 定期的にボランティア活動を行おう

→ 福祉施設やサロンなどで、定期的にボランティア活動を行える環境を作る



基本目標2 共に支え合う地域づくり

▼施策① 地域の居場所「魅力ある“ふれあい・いきいきサロン”づくり」

目指す方向 ➔ ふれあい・いきいきサロン事業を充実させ、地域の様々な居場所の活動を推進します。

ステップ1 身近な居場所に参加しよう

➔ サロンパンフレットの配布や口コミを通じて、サロンへの参加を促す

ステップ2 サロン活動を活性化させよう

➔ サロン間で情報交換できる場の設定や、情報を提供することで、活性化を図る

▼施策② 自治会等地域の各団体と連携・協働 「“オールみずほの”で福祉のまちづくり」

目指す方向 ➔ 自治会等地域の各種団体の連携をさらに強化し、“オールみずほの”で福祉のまちづくりを推進します。

ステップ1 瑞穂野地区の困りごとを共有しよう

➔ 自治会等、地域の各種団体と情報共有する場を設ける

ステップ2 困りごとを解決しよう

➔ 各種団体で協力して課題の解決に取り組む

▼施策③ 福祉活動の充実による 「赤ちゃんから高齢者まで“みんなで見守り”」

目指す方向 ➔ 「安心・安全情報キット配付事業」などの福祉活動に協力し、見守り活動を推進します。

ステップ1 地域の福祉活動を応援し、地域を活性化させよう

➔ 中学校の地域活動に協力する

ステップ2 見守りを活発化させよう

➔ 安心・安全情報キットの活用を推進し、見守り体制の充実化を図る

基本目標3 安心して暮らせる福祉の基盤づくり

▼施策① 地域内交通の普及・推進「みんなで活用“みずほの愛のり号”」

【 目指す方向 → 「みずほの愛のり号」を利用し、安心して暮らし続けることのできる地域を作ります。】

ステップ1 愛のり号をたくさん利用しよう

→ 愛のり号の利用を呼び掛ける

ステップ2 愛のり号を周りに伝えよう

→ 愛のり号のPRを行う

▼施策② 身近なところで相談をキャッチ 「安心・安全“福祉のまち・みずほの”」

【 目指す方向 → 地域包括支援センターや福祉施設等と地域がつながり、生活や福祉に関する困りごとについて、相談や支援をします。】

ステップ1 周囲の人を気に掛け合う町にしよう

→ 見守り啓発のパンフレットを作成・配付し、周囲を気に掛ける意識を啓発する

ステップ2 誰でも安心して生活できる町にしよう

→ 生活に役立つ情報の提供や、日頃の見守り活動に繋げる



瑞穂野地区
福祉のまちづくり計画
【改訂版】

発行：令和6年3月31日
瑞穂野地区福祉のまちづくり推進委員会